

科目名	人間の尊厳と自立						
科目名(英)	human dignity and self-reliance						
単位数	2	時間数	30	担当者	前田浩明		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	社会福祉協議会にて 社会福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	介護・福祉の現場で働く専門職として、その職業倫理の基盤ともいえる人間の尊厳及び介護場面における利用者の自立支援について、そのことの本質的な意味を理解することによって、介護現場で「実践」として展開できる能力・資質を涵養することを目的として授業を行う。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	○	
					実技:	○	
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				介護福祉士が理解すべき人間の多面性を理解し、自身の言葉で説明・表現することができる。	
		○				人間の尊厳とは何かについて専門職が大事にしなければならないことを理解し、説明できる。	
		○				介護福祉士が利用者の自立を支援する意義及び求められることを理解し、説明できる。	
	○					介護現場における権利擁護について制度や予防体制等について理解し、説明できる。	
			○			自らの倫理観を高めるよう、自身の日常生活に良い影響を与え、行動を見直すことができる。	
テキスト・教材 参考図書	ミネルヴァ書房テキストブック編集委員会 介護福祉士 人間と社会編 吉賀成子監修						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション～尊厳と自立をいかに学ぶか～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	介護における尊厳と自立について① ～GWにてイメージを掴む～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	介護における尊厳と自立について② ～イメージを具体化する～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	介護における尊厳と自立について③ ～自分の言葉で表現してみよう～「人間」の多面的理解～				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み ～人権擁護と憲法～ (特別授業)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	「生きる」とはどういうことなのか (特別授業)				実習記録を事前に読み返しておくこと	
	7	尊厳のある介護、自立支援につながる介護とは？ ～介護実習Ⅰを一人ひとり振り返る～				当該事件についての情報を把握しておくこと	
	8	相模原市 津久井やまゆり園の事件から考える障害者の命、人権				認知症の高齢者が被害者となる事件について整理しておくこと	
	9	子どもの貧困 ～子どもたちの環境にどんな変化が起こっているのか～				子どもの貧困について背景や各地の対策等について理解を深める	
	10	「ホーム」の回復をめざして NHKプロフェッショナル 絆が人を生かすから ～ホームレス支援 奥田知志さん～				ホームレスの現状や支援態勢について事前学習する	
	11	ココがズレてる健常者 障害者100人がモノ申す！ NHK/バラバラ特番				障害者の人権について事前に調べておく	
	12	あなたは私の手になれますか？～小山内美智子のメッセージ～				障害者の人権について事前に調べておく	
	13	奪われた尊厳① ～元ハンセン病患者の隔離政策から人間の尊厳について学ぶ/DVD視聴～				ハンセン病の歴史について整理しておくこと	
	14	奪われた尊厳② ～元ハンセン病患者 詩人桜井哲夫さんの帰郷(ドキュメンタリー)～				ハンセン病の歴史について整理しておくこと	
15	講義まとめ ～資料整理、感想レポート作成～				配布資料をすべて揃え整理しておくこと		
評価方法	成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	授業感想(小レポート)	○	◎				20%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	人間関係とコミュニケーション						
科目名(英)	Human Relation and Communication						
単位数	2	時間数	30	担当者	亀田 尚		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	障害者施設 支援院 7年間		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	介護福祉士の国家資格取得のための要請科目の一つであり、対人援助職の最も基本となる人間関係とコミュニケーションについて基本的なことを学ぶ基礎科目である。この科目は、「コミュニケーション技術」に繋がる基礎科目であるが、コミュニケーションの技法等よりも、人とのコミュニケーションを阻む要因を考え、かつ自分自身の内面を見つめることを重視する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					人間関係の基本となる知識や理論をできるようにする。	
		○				自分たちが置かれた社会や環境を理解し、自分自身の人間関係の形成に役立てられる。	
				○		自分自身のことを振り返り、自己覚知を深める。	
				○		他者と協力したり、コミュニケーションを円滑に図れるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	『最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解』中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2	人の好き嫌い 負の感情の扱い方 <グループディスカッション>					
	3	人間関係について考える その1 集団の中での人間関係 <グループディスカッション>					
	4	人間関係について考える その2 人見知りとは? <グループディスカッション>					
	5	自己覚知 その1 自信力テスト・コンプレックスについて					
	6	自己覚知 その2 コンプレックスについて				次回までに、各自のコンプレックスについてのレポートを提出する。	
	7	自己覚知 その3 家族について考察する					
	8	人間関係の形成 その1					
	9	人間関係の形成 その2					
	10	自己覚知 その3 自分自身の家族について①					
	11	自己覚知 その3 自分自身の家族について②					
	12	自己覚知 その4 自分自身の家族について③				後日、家族についてのレポートを提出する。	
	13	コミュニケーション技法 その1 発達障害者への支援					
	14	コミュニケーション技法 その2 共感の技法					
15	総まとめ いじめ社会について考える <グループディスカッション>						
評価方法	レポートを2回実施し、2回目(を)定期試験に匹敵するものとして評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	◎		○	○	80%
	発表・作品	○	○		◎	○	20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を取得することができない。						

科目名	社会の理解(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4	時間数	60	担当者	伊東良輔		
実施年度	2020	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	介護実習普及センター職員として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護福祉士の役割を理解し、他者へ説明することができる 介護保険制度、障害者支援制度の利用手続きとサービスを説明できる。 その他の社会保障制度の概要について説明できる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士として福祉を学ぶ意義を自らの言葉で説明することができる。	
		○				社会福祉に関する基礎的知識を身に付け、実践現場で活躍できるようになる。	
				○		社会人として必要な態度や言葉遣いを意識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	社会の理解 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション ①科目説明、②生活					
	2	①家族、②地域社会					
	3	①社会と組織、②ライフスタイルの変化(1)					
	4	①ライフスタイルの変化(2)、②生活支援と福祉の体系					
	5	①資本主義と社会保障					
	6	①社会保障制度の発達史					
	7	①社会保障制度のしくみ(1)					
	8	①社会保障制度のしくみ(2)					
	9	①現代社会と社会保障制度					
	10	①介護保険制度創設の背景と目的、動向					
	11	①介護保険制度のしくみ(1)					
	12	①介護保険制度のしくみ(2)					
	13	①介護保険制度のしくみ(3)					
	14	①介護保険制度のしくみ(4)					
15	①介護保険制度における専門職の役割 前期授業の振り返り						
評価方法	授業参加態度、期末試験の結果から総合的に理解度を評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	講義参加				◎		50%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	レクリエーション(前期)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	波多江磨里子		
実施年度	2020年	実施時期	通年(前期)	担当者実務経験	レクリエーションインストラクター		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	人間は「自分らしく、より心地よく生きていきたい」と願う生き物である。その「願い」を実現するための『援助者』として、レクリエーションの意義・役割を理解し、知識を学び、被援助者に適切なレクリエーションの機会を提供することができるよう 事前評価―計画―実施―再評価の方法や、活動分析、アクティビティのアレンジについて知る。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		レクリエーションが特定の人や時間に限定されるのではなく人権であることを知る。	
	○	○		○		人によって異なる心や体の課題を理解し、個々人に対し利用者分析を行うことができる。	
	○	○	○	○		個人への事前評価を基に、利用者の課題解決に向けた援助行動ができる。	
	○	○	○	○		集団も個人の集まりであることを理解し、生活の快を追求するための集団援助ができる。	
○	○		○		身の回りにある保健体育・レクリエーションのための社会資源を10以上あげることができる。		
テキスト・教材 参考図書	楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	・レクリエーション概論 主旨・意義、手段、支援の目的			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	2	楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	3	対象者の心の元気づくりの課題、心の元気と地域のきずな			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	4	支援の理論 信頼関係づくりの理論			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	5	支援の理論 良好な集団づくりの理論			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	6	支援の理論 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	7	リスクマネジメントの方法			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	8	福祉分野におけるレクリエーション援助過程			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	9	アセスメントと目標設定			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	10	支援プログラムの理解 個人援助と集団を介した援助			テキストの該当範囲をよんでおく。		
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	定期試験を実施する。60点未満は再試。なお出席が2/3に満たない場合は定期試験は受けられない。/ 成績評価基準はA(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下) /実技・演習・グループワークの意欲・参画態度も考慮し総合的に評価します。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○		◎		70%
	小テスト	○	○		◎		10%
	宿題・レポート	○	○		◎		10%
発表・作品	○	○		◎		10%	
履修上の注意	出席が2/3に満たない者は 評価対象外とする。/ 実技・演習・グループワーク等に積極的に参画していない場合は減点の対象になります/ 調べたり考察が必要な宿題もあります。前向きに努力してください。						

科目名	介護福祉総論(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田上 美里		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	病院にて介護職にて勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	介護福祉士の誕生した背景を理解し役割や求められる専門性を理解する。 今後の介護現場で求められる介護福祉士の専門性について知識を深める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士が誕生するまでの時代背景を理解できる。	
	○	○				介護福祉士の役割と機能を理解し、多職種との連携・協力の重要性を説明できる。	
	○					社会福祉士及び介護福祉士法について理解できる。	
	○					介護福祉士養成カリキュラムについて理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 3 -介護の基本 I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 介護福祉士を知る				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	2	介護のなりたち—言葉、歴史				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	3	介護のなりたち—専門職が誕生した背景				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	4	介護の概念の変遷—1970年代				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	5	介護の概要の変遷—1980年代				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	6	介護の概要の変遷—1990年代以降				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	7	介護福祉の基本理念				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	8	介護福祉士の役割と機能—介護予防				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	9	介護福祉士の役割と機能—人生の最終段階の支援				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	10	社会福祉士及び介護福祉士法				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	11	社会福祉士及び介護福祉士法—諸規定				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	12	介護福祉士の義務規定				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	13	介護福祉士養成カリキュラムの変遷				授業内容に係わる確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	14	介護福祉士をまとめる団体				授業終了時に示す課題を行い次回授業時に提出すること	
15	介護福祉士をまとめる団体—日本介護福祉教育学会				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の割合で評価する 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護福祉各論Ⅰ(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解して、介護福祉の専門職としての能力と態度を学習する。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護福祉を必要とする人の背景を理解し利用者へ何が出来るかイメージできる。	
	○	○		○		障害者のためのサービスについて説明できる	
	○	○		○		高齢者のためのサービスについて説明できる	
	○	○		○		地域の社会資源について説明できる	
	○	○		○		介護福祉士の役割についてイメージできる	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 介護の基本Ⅱ 見て覚える介護福祉士国試ナビ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	私たちの生活理解					
	2	介護福祉を必要とする人たちの暮らし					
	3	介護福祉を必要とする高齢者の暮らし				社会福祉協議会職員からの講演	
	4	介護福祉を必要とする高齢者の暮らし					
	5	個人の暮らしや歴史を聴く場合の注意点				フィールドワーク(公民館)	
	6	「その人らしさ」とは何か。「その人らしさ」の背景				フィールドワーク(公民館)	
	7	「生活ニーズ」の理解。個々の生活ニーズにどこまでこたえるか					
	8	生活のしづらさについて考える					
	9	日常生活から考える「生活のしづらさ」					
	10	日常生活から考える「生活のしづらさ」					
	11	「生活のしづらさ」に対する支援				まとめ・発表	
	12	「生活のしづらさ」に対する支援				まとめ・発表	
	13	生活を支えるフォーマルサービス(高齢者)					
	14	生活を支えるフォーマルサービス(高齢者)					
	15	試験対策					
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	コミュニケーション技術 I						
科目名(英)	Communication Technology I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平山恵子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	介護老人保健施設にて 介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者の家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護を必要とする人とのコミュニケーションの意味と役割を説明することができる。	
	○			○		介護現場で利用者およびその家族とのコミュニケーションを深めるための様々な技法を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 ・中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2019						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	自己開示(1) 自己紹介					
	2	自己開示(2) 自己紹介					
	3	介護におけるコミュニケーションの基本 地元の方言					
	4	介護におけるコミュニケーションの基本 地元の良いところ(1)					
	5	介護におけるコミュニケーションの基本 地元の良いところ(2)					
	6	介護におけるコミュニケーションの基本 コミュニケーションとは			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	コミュニケーション態度に関する基本技術(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	コミュニケーション態度に関する基本技術(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	言語・非言語・準言語コミュニケーション、利用者の感情表現を察する技法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	目的別のコミュニケーション技術、利用者の納得と同意を得る技法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	相談・助言・指導の技法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	利用者の意欲を引き出す技法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	利用者と家族の意向を調整する技法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	集団におけるコミュニケーション技術、複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	まとめ			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	①定期試験(筆記)を実施する。②グループワーク、発表を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品				◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術・基本 I (前期／通年)						
科目名(英)	Life support technology Basic I						
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	案納／吉水／平山／豆田		
実施年度	2020年度	実施時期	前期／通年	担当者実務経験	NS(病院)／CW(特養)／CW(老健)／CW(病院)		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。						
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	実技:	○ ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				生活を支えるということがどのようなことかを説明することができる。	
	○	○				対象者に必要な支援・援助の方法を選択でき、介助することができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術 I 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7. 生活支援技術 II 中央法規 見て覚える！ 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、休息・睡眠の介護(豆田)座学				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	2-3	ベッドメイキング(豆田)演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	4-7	自立に向けた移動の介護(豆田)座学				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	8-9	体位変換(豆田)演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	10-11	自立に向けた移動の介護(吉水)座学				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	12-15	車いす、杖歩行、自動車への移動(吉水)演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	16-17	自立に向けた身じたくの介護(案納)座学				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	18-19	着脱介助(案納)演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	20-21	自立に向けた身じたくの介護(平山)座学				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	22-23	口腔ケア(平山)演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	24-25	自立に向けた食事の介護(平山)座学				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	26-27	食事介助(平山)座演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	28	実技練習				演習授業の内容を復習しておくこと(1時間)	
29	実技練習				演習授業の内容を復習しておくこと(1時間)		
30	実技練習				演習授業の内容を復習しておくこと(1時間)		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習後演習記録の提出をする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				90%
	小テスト						
	宿題・レポート		◎	○	○		10%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						



科目名	介護総合演習 I (前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	豆田和也		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	病院にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	学生が主体的に、自己の実習の目標や課題を明確にし、介護実習を円滑に行うための知識や技術の習得ができています。実習後は実習の成果を学生間で共有できるようになる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			実技試験に4回目までに合格できる	
				○		すべてに出席できる	
	○	○				実習中及び前後の提出物が期限通りに提出できる	
				○		授業に対して能動的に取り組むことができる	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護実習・総合演習」 介護実習日誌						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	なぜ実習に行くのか意義・目的					
	2	実習先発表、自己紹介表記入					
	3	調べ学習					
	4	目標設定					
	5	日誌下書き					
	6	日誌清書					
	7	実習内容					
	8	実習の決まりごと確認					
	9	実習前審査リハーサル					
	10	事前挨拶／実習前審査					
	11	事前挨拶／実習前審査					
	12	お礼状/申し送り簿記入					
	13	報告会準備					
	14	実習報告会					
15	実習報告会						
評価方法	1、実技試験に4回目までに合格できる 2、実習関係書類の提出期限が守られること 3、授業に出席していること 4、授業で説明されたことを理解し、自ら考え、主体的に取り組んでいく姿勢がある 以上4つの視点で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技試験	○		○	○		100%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	発達と老化の理解(前期／通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	林田朋子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期／通年	担当者実務経験	病院にて看護師として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護福祉士は介護の中核を担う存在となり、複雑化・多様化・高度化していく介護ニーズに対応していく必要がある。この授業では、介護を必要とする人の理解を深めるため人間の成長と発達の基礎的理解を学び、発達と老化の観点から老化の心理や身体的変化変化、特徴の基礎的な知識を身につけ、人生のあらゆる段階、特に高齢者の生活支援するための知識を学ぶ。						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					成長・発達の考え方、原則、影響する要因、発達段階と発達課題の基礎知識を習得できる。	
	○					成長・発達の観点から、老化にともなう心理や身体的機能の変化及び特徴に関する基礎的な知識を習得できる。	
	○					老化にともなう身体的・心理的・社会的変化とそれらがどのように生活に影響を与えるかを理解できる。	
		○					習得した知識であらゆる段階、特に老年期にある人を理解し、尊厳の保持などを踏まえ生活支援ができるようになる。
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規出版 介護福祉士養成講座12-発達と老化の理解</li> <li>中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目ガイダンス 自己紹介 医療と福祉の違い 授業の進め方 人間の成長と発達の基礎的知識 成長と発達の考え方				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	人間の成長と発達の基礎的知識 成長・発達の原則・法則				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	人間の発達段階と発達課題 発達理論				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	人間の発達段階と発達課題 発達段階と発達課題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	人間の発達段階と発達課題 身体的機能の成長と発達				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	人間の発達段階と発達課題 心理的機能の発達				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	人間の発達段階と発達課題 社会的機能の発達				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	老年期の特徴と発達課題 老年期の定義 老化とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	老年期の特徴と発達課題 老年期発達課題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	老年期の特徴と発達課題 老年期をめぐる今日的課題				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	老化にともなうところからだの変化と生活—身体的な変化と生活への影響 生理機能・骨格筋・脳神経系の機能と変化と生活への影響				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	老化にともなうところからだの変化と生活—身体的な変化と生活への影響 感覚器・血液・循環器・呼吸器系の機能の変化と生活への影響				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	老化にともなうところからだの変化と生活—身体的な変化と生活への影響 消化器・腎・泌尿器・生殖器・内分泌・代謝免疫系の機能の変化と生活への影響				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	前期授業のふり返り				授業時配布プリントの生理をしておくこと	
15	前期定期試験対策 国試過去問				授業時配布プリントの生理をしておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業プリントの確認を実施する。(3)グループワーク・発表を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	プリント確認	○			◎		10%
	宿題・レポート	○	○		○		5%
	発表	○	○		◎		5%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	認知症の理解(前期/通年)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	豆田和也		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	病院にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科1年生						
授業概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		認知症の定義・全体像について理解し説明できる	
	○	○		○		認知症の症状・原因疾患について理解し鑑別することができる	
	○	○		○		認知症の人の現状と課題について知り、考えを述べることができる	
	○	○		○		認知症ケアの実際について具体的な方法と留意点について言うことができる	
	○	○		○		認知症の人の地域生活支援の具体的な方法について述べることができる	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座13 認知症の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	認知症とは何か① 認知症の定義と特徴				教科書を事前に読んでおくこと	
	2	認知症とは何か② 症状の全体像				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	3	脳のしくみ① 脳の構造・機能				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	4	脳のしくみ② 認知症における脳の変化				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	5	認知症の症状① 中核症状の理解				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	6	認知症の症状② 中核症状の理解				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	7	認知症の症状③ 生活障害の理解				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	8	認知症の症状④ BPSDの理解				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	9	認知症の診断と重症度				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	10	認知症の原因疾患 アルツハイマー型認知症と血管性認知症の比較				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	11	認知症の原因疾患 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 治療可能な認知症				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	12	認知症の原因疾患 若年性認知症				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	13	認知症の原因疾患の鑑別				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	14	認知症の治療薬と予防				小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと	
	15	認知症の基礎的理解のまとめ				前期まとめテストを実施するので勉強しておくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				85%
	小テスト	◎	◎				10%
	出席率				◎		5%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	障害の理解(前期／通年)						
科目名(英)	Understanding of Disorders						
単位数	4	時間数	60	担当者	田中優子		
実施年度	2020	実施時期	前期／通年	担当者実務経験	病院で看護師として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	障害の概念や障害者福祉の歴史を踏まえ、障害者支援の基礎となる関係法規や障害者福祉の理念を理解する。障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)の特性について理解し生活上の支援の在り方を学ぶ。障害者やその家族に対する関わり・支援の基礎を理解する。地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害者福祉に関する制度や専門用語、公的支援や疾患の概要を理解する	
		○				障害者福祉制度と介護保険制度の共通点と相違点について理解する	
		○				障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について理解する	
		○				障害者への社会資源や家族へのサポートのありかたについて理解する	
			○			障害者の個別の事例について考え支援の在り方について意見を述べる事が出来る	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規出版 介護福祉士養成講座14 - 障害の理解</li> <li>中央法規出版 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ2017</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	障害の概念と障害者福祉の基本概念・・・ICFについて理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	2	障害者福祉の基本理念・・・ノーマライゼーションの思想				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	3	障害者福祉に関連する制度・・・歴史・サービス・法律の概要				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	4	障害者福祉と介護保険制度の違いや両制度の併用のしくみについて				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	5	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること(1時間)	
	6	障害のある人の心理・・・人間の欲求や適応機制について学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	7	肢体不自由の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	8	視覚障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	9	聴覚・言語障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	10	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ①				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	11	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ②				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	12	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ③				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	13	内部障害の特性を理解し支援のポイントを理解する ④				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	14	重症心身障害の特性を理解し支援のポイントを理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
15	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること(1時間)		
評価方法	(1) 毎回ミニテストを行う。(2) 定期テスト(筆記)を実施する。評価はS(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	こころのしくみ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大黒剛		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院で臨床心理士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科1年						
授業概要	①こころの面から利用者の状態を見て、その要因の根拠となる知識について学ぶ。 ②こころとからだは相互に影響しあい、意欲や行動に影響を及ぼすことを学習する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間の欲求について学び、自己実現と尊厳の重要性について理解説明できる。	
	○	○				こころのしくみとしての心理学の基礎を学び、説明できる	
	○	○				人間の成長と発達の基礎的知識を学び、説明できる。	
	○	○		○		人間の発達段階と発達課題を学び、人のライフサイクルが概観できる	
	○			○		学びの中から自己の振り返りができ、自己理解に結びつききっかけとなる	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 最新 介護福祉士養成講座11 - こころとからだのしくみ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業内容についてオリエンテーション、「心理学とは？」				心とは何か、自分なりに考えておくこと。	
	2	平均寿命と健康寿命について、健康維持とストレスの関係				自分にとって健康寿命とは何か、健康寿命を延ばすためには何ができるか、考えておくこと。	
	3	心のしくみ①「動機付け」「自己実現欲求」				自分の中の欲求とは何か、モチベーションが下がっている時に、どのように上げているか考えておくこと。	
	4	心のしくみ②「記憶」「感情」				忘れた記憶なのにどうしても忘れられない話があれば語れるように準備しておくこと。	
	5	心のしくみ③「学習」「言語」「思考」				あなたは自分の経験をどのように未来に活かしているのか、考えておくこと。	
	6	心の育ち方「乳幼児期から思春期まで」母子関係、青年心理学				対人関係の基礎となる、養育者との関係について考えておくこと。	
	7	心の育ち方「青年期から成人まで」恋愛と結婚について				あなたにとって恋愛とは何か、結婚とは何か、恋愛と結婚の違いとは何か、考えておくこと。	
	8	心の育ち方「壮年期から老人期まで」老後の生き方、老人と性				あなたにとって理想的な老後とは何か、考えておくこと。	
	9	死ぬということ「自分らしい生き方と安楽死」				安楽死とは何か、日本以外のどのような国で実施されているか、リサーチしておくこと。	
	10	社会的問題と心理学①「障害者差別に対する取り組み」				小、中、高の学生生活の中で、障害者とのように接してきたか、そのエピソードを考えておくこと。	
	11	社会的問題と心理学②「発達障害とは何か。適応とは何か。」				発達障害について、どのような種類があるのかリサーチしておくこと。	
	12	心の傷と心の病気①「さまざまな精神疾患」				傷付き体験やストレス、ストレッサーについて考えておくこと。	
	13	心の傷と心の病気②「うつ病」「自殺」				うつ病や自殺に関する最近の動向について、厚生労働省のホームページなどを確認しておくこと。	
	14	社会集団と個人「自分は他人からどう見られているのか」				自分は自分のことをどう思っているのか、他人は自分のことをどう思っているのか、考えておくこと。	
	15	* 本科目のまとめ				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	からだのしくみ I (前期/通年)						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下 和美		
実施年度	2020年度	実施時期	通年(前期)	担当者実務経験	看護師として医療機関にて勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性のひとつに、利用者個々人の心身の状態に応じたケアを行うことが挙げられる。この授業では、個別ケアの中核をなす『介護過程(総論・各論)』において、身体構造・心身機能をアセスメントするために必要な医学知識を学ぶ。また、『障害の理解』『生活支援技術(基本・応用)』に関連するところやからだのしくみを理解して、全人的なケアを提供する際に必要な知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					生活支援技術の根拠となる人体の構造・機能と、関連した疾患や障害の概要を説明することができる。	
	○					疾患・障害に対応するために、医療職との連携・協力の重要性を説明することができる。	
	○					介護サービスの提供における安全への留意点を説明することができる。	
		○				利用者の様子から、からだの状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる。	
			○			利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面について配慮し、ケアの際に実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央法規出版 最新介護福祉士養成講座11 - ころとからだのしくみ</li> <li>中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2020</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	介護福祉士に必要な医学知識について-身体の部位と各部の名称			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	脳・神経系のしくみとはたらき①中枢神経			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	脳・神経系のしくみとはたらき②末梢神経			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	感覚器系のしくみとはたらき			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	循環器系のしくみとはたらき			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	呼吸器系のしくみとはたらき			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	消化器系のしくみとはたらき			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	泌尿器系のしくみとはたらき			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	骨格系と筋肉系のしくみとはたらき①骨格系と関節の動き			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	骨格系と筋肉系のしくみとはたらき②筋肉系とからだの動き			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	生殖器系・内分泌系のしくみとはたらき①生殖器系と関連するホルモン			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	生殖器系・内分泌系のしくみとはたらき②内分泌系			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	血液系・リンパ系のしくみとはたらき			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	関連する役割、および薬の知識			教科書・国試験ナビの該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	学習のまとめと前期試験対策					
評価方法	前期授業の終了後に定期試験(筆記)を実施する。総合評価の際には以下の評価を加えて評価する。 (1)授業の中で確認テストを毎回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)授業の中での討議・発表を行う。 上記の(1)(2)(3)については下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				10%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
	討議・発表	○	○		◎		5%
履修上の注意	欠席が11回になった場合、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護実習 I A						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	40時間	担当者	豆田和也		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	介護福祉科 1年生						
授業概要	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチーム一委員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			利用者の個別性理解のためのコミュニケーション方法について、職員と利用者の関りを見学し学ぶ	
			○	○		介護福祉専門職としての自覚を学ぶ。	
	○	○	○			実習記録を適切な方法で毎日記載し確実に提出することができる。	
		○		○		社会人としての基本的マナーが実践できる	
			○			指導者の指導を受け、メンバーと協力して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	日数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る				日々の実習記録の記載	
	2	指導者の利用者との関係性や施設の役割を知る				日々の実習記録の記載	
	3	利用者自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる				日々の実習記録の記載	
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する				日々の実習記録の記載	
	5	介護福祉士の役割について理解する				日々の実習記録の記載	
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
	記録提出	○	○		○		50
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						